

第5回 自治基本条例市民ワーキンググループ会議 要旨

日時：平成23年2月18日（金）

19：00～21：00

場所：市役所 庁議室

出席者：嶋田准教授、森山委員、草野委員、梶原委員、長谷部委員、川浪委員、
片桐委員、野村委員、河野委員、諫山委員
（事務局）宮崎課長、橋本係長、笹倉主任

1、開会挨拶

【宮崎課長より挨拶を行う】

2、提出資料の確認について（前回会議内容から）

発言の要旨

草野座長：提出資料の確認について事務局からお願いします。

事務局：【資料の説明を行う】

委員A：市の人口等の統計資料をいただいておりますが、人口推移が毎年微減とはいえ減っています。高校生対象のアンケート結果を見ても、大学に進学した後は、日田に戻ってくるのはあまり期待できないような気がします。何か歯止めになるような施策を考えているのでしょうか。企業誘致などは一つの大きな考えとしてあるとは思いますが。

事務局：人口については、ご指摘のとおり減る一方というのが現実です。資料の中の日田市の人口ピラミッドを見ていただくと、20歳から24歳の所がかなり減っています。これは高校を出た後の進学先就職先が日田市内にないということが出ていってしまっています。この資料からは読み取りにくいですが、25歳から29歳はある程度日田市に戻ってきている状況もあります。高校生アンケートでも、働く場所があれば帰ってきたいというニーズもありますので、最近の例で言いますと、キャノンの誘致が転出した人が帰ってくるきっかけになるのではないかと考えています。

もうひとつは、地場産業を興していく必要があるということで、日田では林業農業で何とか後継者を作れないだろうかと考えています。若い人達が林業農業をやって所得が上がるような仕組みができないか検討していくなかで、例えば周辺地域で年間を通して椎茸、米、わさびなど農業と林業を複合的にやっていくような仕組みである程度の所得を上げていけないだろうか検討していると聞いています。

草野座長：他に何もなければ次の意見交換に行きたいと思います。意見交換については嶋田先生に進行をお願いします。

3、意見交換などについて

発言の要旨

嶋田先生：私からも質問があります。資料として提出された「総合計画策定時の高校生に対する意識調査」についてです。不満足度の高い項目としての10位に「障がい者施設（通所授産施設等）」がありますが、これはどちらの意味で捉えればいいのでしょうか。施設があるのが不満なのか、それとも施設がないのが不満なのか。

事務局：間違いなく、施設が少ないのが不満だということだと思いますが。

嶋田先生：間違いなくかどうかはわかりません。全国各地、自治体のなかには、住民反対運動が起きたところもありますのでお聞きしています。精神障がい者の方を対象とした施設の建設では、偏見に満ちたといえる反対運動が実際に起きています。

委員B：高校生は授業の一環として障がい者施設を訪問したりしますが、その時に高校生自身が感じた何かをアンケートに対して回答していると思います。このアンケート結果を見ると、「もう少ししてあげたらよいのではないか」「足りていないのではないか」というのを書いているというふうに取り扱います。

委員C：私もこの結果は、障がい者施設数が少なすぎるという意味だと思います。市内の高校で福祉関係の学科を持っているところもありますので、そこの生徒さんが答えたのではないかと思います。

嶋田先生：わかりました。それと事実関係の確認ですが、環境基本計画策定時の転入者アンケート調査結果についてです。このなかで、「日田市の中で改善すべき環境や景観がありますか」という項目で、「河川環境に関すること」があります。そして回答内容のひとつに、「豆田の川岸は一見整備されているようには見えるが、実際行こうとは思わない。自分が住んでいた札幌の豊平川とは、比べ物にならない。水郷というわりには取り組みが足りない。」と書かれていますが、実際にどのような取り組みをされているのでしょうか。

委員D：私は、その豆田の川の近くに住んでいるのですが、千年あかりとか天領まつりとかのために川岸を舗装して整備をしています。夏場は水量が少なくて水が渾み臭いもします。梅雨時期とか台風時期になると必ず増水して毎年壊れるのに毎年整備しています。最初はきれいだったけど、泥とかで汚くなって、またやり直す。その繰り返しです。どのような計画でされているのかなというのは、近所に住んでいて思います。

事務局：話に出ている河川は一級河川で国土交通省の管轄になりますが、今の整備計画のやり方については、国交省としては市民や地元と一緒にという考え方のなかで整備をしているのが現状のようです。ただ、少し疑問だったのが川岸の舗装がコンクリートではなくて土を固めたような舗装で、増水したときにそれが流れてしまいました。費用をかけたのにどうかなというのはありました。

嶋田先生：話は変わりますが、「総合計画策定時の高校生に対する意識調査」のなかのイメージ評価の低い項目として、「教育に熱心なまちである」というのがあります。これは、「教育に熱心ではないと思っている高校生が多い」ということのようにですが、日田には広瀬淡窓がいたので、伝統として教育に熱心なのかなと思っていましたが、この項目が挙がるのは意外な感じがしました。

委員B：今、市内の高校生でも咸宜園を知らない人の方が多いと思います。社会見学などで学校自体が連れて行って資料を見たりすると、咸宜園がどういうものかわかるのですが、そうでなければ知らないと思います。だから、一部の子ども達しか、日田は昔全国で一つしかないような重要な塾があったというのを知らないのではないかなと思います。この情報は外に発信していくべきだと思います。

委員D：昔からかもしれませんが、小学校では最近社会見学をしているようです。

委員B：最近、世界遺産登録に向けた動きとか、咸宜園教育研究センターとかで、いろいろと取り上げられるようになって、学校も以前よりも注目するようになったのではないのでしょうか。

委員E：教育に熱心かどうかというより、アンケート結果に現れているのは、いわゆる学力のことが中心だと思うのですが。

嶋田先生：学力について日田市はどのようなのですか。

委員F：はっきり覚えていませんが、ここ2～3年の学力調査だと思いますが、大分県内で上位だったような気がします。

事務局：テストの結果の方は、情報を持ち合わせていませんが、以前より良くなっているというのは聞いています。ただ、科目によって、例えば英語は悪いが社会科が良いとかいうのはあると思います。

嶋田先生：次回、確認できる資料の用意をお願いします。

委員C：「総合計画策定時の高校生に対する意識調査」は追跡調査をしたのでしょうか。高校生の時に思っていたことが、その後就職して同じ質問をしたとして、どのように変わったか。同じ人がどう思っているかというのが知りたいです。なぜかと言うと、「今、日田市に不足しているのは」という質問項目で、「遊ぶ場」とか「ショッピングの場」という回答が出てきています。高校生らしい回答なので、それがどのように変わっていくのかと思ったからです。

それと、「自由意見」の項目ですが、資料には出た意見をまとめたものを載せていますが、提出された原本を読みたいのですが、可能ですか。

事務局：無記名なので、見せることは問題ないと思います。ここに原本がありますので、後ほどご覧ください。

委員E：この「環境基本計画策定時の転入者アンケート」はどこが作ったのですか。

事務局：水郷ひたづくり推進課という環境担当部署です。

委員E：取りまとめ結果を見てショックだったのが、送付数 200 で回収率が 28% となっています。3 分の 1 しか戻ってきていない。アンケートの仕方を見直した方がいいのではないのでしょうか。回答率が 50% 近くなるような、方法なり内容にした方がいいと思いますが。

委員G：市のアンケートに協力したことがあるのですが、直接回収だったのでかなり回答が集まったことがあったと思います。

事務局：委員Gさんがおっしゃったのは、地域福祉計画策定時のアンケートのことです。各地区の民生委員さんに配布と回収をお願いして調査をしました。その回収率は 95% くらいあったと思います。郵送の場合が 45% くらいでしたので、より多くの回収ができたケースだと考えています。

通常の郵送で行う意識調査などでは、50% には届かず 40% 台がほとんどです。

委員E：転入者アンケートであれば、例えばアンケートを回答してくれた人に日田市の宣伝も兼ねて、天領資料館の入場券とか祇園山鉾会館の入場券を贈るとかいうことも考えてよいのではと思います。私が民間だからかもしれませんが、アンケート回答率を上げるのであれば。

行政としても、咸宜園があるとか歴史文化があるとか言っても、しっかりアピールしないと駄目。特に市外から来た人には、わからない。そこを考えないといけないと思います。

委員C：「環境基本計画策定時の学校アンケート」の「環境基本計画を知っている、知らない」という項目についてです。「知らない」という回答が 96% となっていますが、高校を出て市外に出ていくわけですが、日田市のPRしてもらうには、このあたりから知ってもらっておく必要があるのかなと思います。そして、環境が自分たちの問題として考えてもらえるとより一層良いのかなと思っていますが、これはただアンケートを取っただけなののでしょうか。

事務局：このアンケートは、1 次計画が終わって 2 次計画を作る時のアンケートですので、2 次計画を進める時には、当然委員が言われたような意見も反映させていかなければならないと担当部署としては考えていると思います。学校関係でいえば、学校版 I S O ということで子どもへの環境教育をしています。ですから、学校版 I S O を知っているかどうかを聞けば、みんな知っていると思えますが、環境基本計画というと知らないという結果が出ていますので、今までとは違うアプローチをしていかなければならないのかなとは思っています。

嶋田先生：おそらくこの学校アンケートを取ることで、環境基本計画を知ってもらうためという手段だろうと思うのですが、例えば基本計画の策定自体、中

学生・高校生くらいであればいろいろな物を考えることができますから、自分たちがどのような行動を取れば、環境に貢献できるかを考えてもらって、その意見を計画策定委員会に出すとか。計画を知っているかどうかは本質的なものではなくて、係わろうとすることの方が重要なわけです。

委員A：私は、自治基本条例の市民ワーキンググループの件については地区の集まりで話をしていますが、なかなか条例に対する関心度が高くなりません。このワーキンググループ会議に参加している私達であれば、意見を出したり苦情を言ったり改善案を提案したりと、問題意識を持っているから、これが段々と条例の方にシフトしていくのだろーと思いたしますが、一般の市民の方は、私達と意識の共有化がされていません。ですから、アンケートを取るとか、自治会単位で話し合いの場を設けるとか、少し啓蒙といいますか、策定プロセスの公開とか、何とかしないと、ここだけの話で一般に伝わっていかないと思います。市のホームページに載せているとは思いますが、それくらいでは不十分です。

嶋田先生：一般の市民の方にどうやって広げていくかというのは課題です。他の自治体での事例でいいますと、地区懇談会のようなものを繰り返しやっていく。熱心な自治体になると、市長が全ての地区懇談会に出席して自分の思いを伝える。本当は、そのようにしていくのがよいかとは思いますが。

事務局：今の件につきましては、現時点では市民ワーキンググループと行政内部の庁内検討会で進めています。今後時間をかけていく中で、地区での説明会とかシンポジウムのような市民が参画してのやりとりが重要だと思いますので、今後の事業展開としては、そのように考えています。

嶋田先生：年度が替わりますので、小学校とか中学校とか、学校教育との連動として、授業の一環でこのような問題を取り扱ってもらって、これから日田をどうしていくのかというのを考えてもらうような機会を設けてもらうかがいいかと思います。アンケートでは少し弱いので。もちろん、地区ごとの説明会みたいなものやっていくのはいいと思いますが、タイミングとしてはもう少し遅い段階でもいいような気がします。

それよりも、例えば老人会とかに、日田市に何を残していきたいかとかを聞くとか。思いを持っている方は多いと思いますので、そういった団体とかとの話は、地区説明会より早い段階でもいいのかなとは思いますが、もちろん、シンポジウムもやられたらいいと思います。

他の自治体のやり方をお調べいただきながら、原案としてどのような事やっというかと考えているのか、次回会議で、事務局案として提示いただいてそれを受けて議論していきたいと思っています。

今回、事務局に市民アンケート結果などを用意していただいたのは、前回会議の終わりくらいから出てきている「日田市らしさ」とかを議論しながら、どういったものを自治基本条例の中で謳っていくか。前回、委員さんから広瀬淡窓のいろは歌についての考え方の話がありましたが、このように日田市にある昔ながらの考え方とか伝統とかがあれば、お話いただければと思います。

委員 A: 今年は統一地方選挙があります。私は他県出身で地縁がないのでよくわかりませんが、市議会議員というのは地区の代表みたいな感じで出ているような気がします。世帯数の多い地区から出れば当選します。その人が市長派だと、議会でいろいろと通ってしまうわけです。議会でも国民健康保険税の値上げの話が出ましたが、住民投票とかで議論してもいいような話ですが、議会で通ってしまいます。日田市は二元代表性とはまったく言えない状況です。この前も自宅に選挙事務局長になってほしいと電話がありましたが、後援者ではないから断りました。全国的にそうだと思いますが、地域密着型の嫌なところですよ。

委員 E: 先日、市政や地方自治に詳しい人と話をしていたら、市議会議員に立候補しないかと言われました。理由としては、このままの情勢だと 4 月の市議会議員選挙は立候補者が定数割れになり、無投票当選してしまうからだとのこと。その人は、「供託金は 30 万円くらいだったと思うが、自分がそれを出してもいいから、とにかく立候補して欲しい。無投票当選だけは駄目だ」と本気で言っています。人口が減っている、そして市議定数割れ。であれば、もっと市議を減らしていいような気もします。現状では、市議は地域の取次ぎ役くらいしか思えない。そういう状態で二元代表制だと言っても、市長には太刀打ちできない。議会のチェック機能は無くなるでしょう。

委員 A: 自治基本条例に、住民投票の制度を入れ込むなどして、議会で執行部案が素通りしないようにするとかしなければならぬと思います。

委員 E: 町内というか地区も大切ではあります。小さいことでいえば側溝の蓋を付けたとか。でも、やはり市議会議員というのは市全体を考えていける人でないと、いけないと思います。ただ、市全体のことばかり考えると、落選してしまう現実がある。

嶋田先生: これまでの仕組みを前提とすると、議員さんは地域の声を代弁しないと当選できない。だから、そういう議員さんしか出てこない。これを改善していくには、現行の法制度を前提とするのであれば、二通りの方法しかないと思います。一つには、地域の利益代弁というのを他の仕組みを使ってきちんとカバーしていく。以前の会議で委員さんが話していましたが、地域で本当に困っているのに、そういった声が行政に届かないという問題が実際にあるわけです。地域の声を行政が受け止められる仕組みをとっていけば、個別のニーズに対して議員さんが動かなくても済むわけです。地域の声を伝えるシステムを作っていく。

もう一つは、執行部と議会との関係が二元代表制とは言えない状況であれば、住民投票のようなことについて自治基本条例などで入れていく。そうなってくると、議員の役割というのは実質限定されてくるので、議員の人数についても少なくなることはなると思います。ただ、私が気になるのは、議員というのは住民の鏡みたいなものであって、結局、住民が望んで地域の利益を優先するから議員がそうってきている。問題は住民投票で決めたとなった場合、重要な事柄なわけですが、「日田市の方向性を決める重要な事柄については住民投票で決めるべきだ」とした場合に、どういう事柄であれば住民投票をして決めるか。

まさに、自治基本条例で大きな方向性として示すべきようなことだと思います。

おそらく、このまちをどうにかしたいというのを住民がきちんと考えてこなかったし、ビジョンがないから個別利益に走ってしまう。そこを異論があってもいいので、みんなでひとつのビジョンを示していくことが必要だと思います。

委員A：行政側の条例、政策に対して賛否を問いたいというのを条例に書き込みたいと思いますが。

嶋田先生：物事を決めるシステムを変えたいというのはわかるのですが、システムを変えた後に何がしたいというビジョンがないと駄目だと思います。

委員B：みなさんにお聞きしますが、自治会長さんが住民に会議をするので集まってくださいという案内を出した時に、人が集まりますか。例えば、学校の統廃合についての話で、就学している、就学していない世帯に係わらず文書を出したときの参加具合です。

委員E：結局、集まるかどうかは議題次第だと思います。私の町内では年度初めの自治会の総会でさえ、出席者は役員と班長だけです。

委員B：住民の意識が年々薄れていっているような気がします。学校の統廃合に限らず地域のことについて。

委員G：この前、学校の統廃合についての話はしました。自治会全体というわけではなく小規模な会議でしたが、孫もいないような世帯の人も集まりました。子どもの数が減るので、統廃合は仕方がないが、その後の跡地活用など意見がかなり出ました。

委員A：毎月1回、公民館で班単位の常会があります。その場で、自治会費を集めるので全世帯とっていいほど集まります。それに併せて、自治基本条例のことを話したりするわけです。月に一度は、いろいろな議題を出して話をする機会があります。

委員E：旧日田市を中心部だと、地区で常会を開催したとしても、集まらないです。自治会費は班長が集めて金融機関で振り込んでいますので、自治会にどのような人がいるか顔は見えませんし、班の人の顔も見えません。そういう面でいえば、本当に地域の繋がりは希薄なものです。

集金のための常会を開きますと言っても、面倒くさい、今までどおりでと言われると思います。生活パターンがそれぞれの家で違うので、煩わしいということでしょうが、今の時代しょうがないかなと思います。

嶋田先生：全国的に、そういった傾向にあるので、わざわざ会合のために集まるのではなく、以前の会議で話した「地域の縁側」みたいなものを作って、そこで楽しみながら、みんなが集まっている。そしてその場で、たまたまいろいろな話題が出てくるような場を市内の各地に作っていくとか。楽しみを作っていくかないと、これからは厳しいと思います。

それと、次回、総合計画と教育委員会が小学校用として日田市についてまとめた冊子があると思うので、事前に委員さんに送ってください。その上で、「その総合計画で本当にいいのか」。一見するといいことばかりを書いているのですが、総花的な何でもかんでもやりましょうということになると、現状を変えることはできません。「日田市らしさとは何なのか」とか「日田市の何が問題なのか」ということを考えたうえでそれを見るときに、「全てを書いているけど、逆に何も書かれていない」という印象を持たれると思います。それを一つの素材として、「この地域をどういう風に持っていきたいのか」といった感じで議論をした方がいいような気がします。

抽象的に日田市らしさを考えても難しいと思いますので、配布していただいた市勢情報を見ながら考えたいと思います。

【以後、日田市らしさを考えるきっかけとして食べ物などの名物、産業について意見交換をする】

嶋田先生：今日は、食の話しかできていませんが、今回は総合計画が事前に配られていますので読んでいただいて、住民投票をするとすればどのような争点ではないといけないのか。日田市として大事にしなければならないことを少し考えてきていただければいいかなと思います。「わたしたちの日田市」という教育委員会作成の冊子も配られていますので批評も含めて議論していければと思っています。それと、ぜひ伺いたいのは、日田市での言い伝えとか教えとか、そういうのがもっとあってもいいのかなと。古きよきもので伝えていかないといけないもの、逆に伝えないほうがいいもの、そのあたりを議論できればと考えています。

委員E：今日、食を中心に観光みたいな話題になりましたが、例えば、観光協会の会長あたりの話を聞くというのはできるのでしょうか。基本条例なので、どこまで関係するかわかりませんが。

事務局：市民ワーキンググループとして、要望があれば対応もできます。

【次回会議日程を決めて終了】